

令和2年9月8日  
観光局観光政策課

## 三重県観光振興基本計画年次報告（令和元年度）について

みえの観光振興に関する条例（平成23年10月20日三重県条例第34号）第21条の規定に基づき、三重県観光振興基本計画（以下、「基本計画」という。）に基づく施策の実施状況等について、令和元年度分を年次報告として取りまとめました。

### 1 三重県観光振興基本計画の目標達成状況

令和元年の観光消費額は、5年連続で増加し、神宮式年遷宮のあった平成25年を超える過去最高の5,564億円となりました。また、観光客満足度（「大変満足」の割合）も、過去最高となる38.5%を記録し、観光の産業化に向けた取組が着実に実を結びつつあります。

目標項目	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和元年度 目標値
① 観光消費額(年)	4,919億円	5,273億円	5,338億円	5,564億円	5,000億円 以上
② 観光客満足度 (年度)	26.7%	18.5%	29.9%	38.5%	25.5%
③ 県内の延べ宿泊 者数(年)	930万人	832万人	890万人	860万人	1,000万人
④ 県内の外国人延 べ宿泊者数(年)	351,870人	334,230人	340,580人	388,950人	450,000人
⑤ 国際会議の開催 件数(年累計)	17件	25件	41件	54件	20件

### 2 令和元年度の主な取組状況

#### (1) 観光の産業化のさらなる推進戦略

- ・（公社）三重県観光連盟公式ホームページ「観光三重」（PCからの閲覧者数全国4位、スマートフォンからの閲覧者数全国1位）やFacebook等を活用し、三重の最新の観光情報を発信しました。
- ・（一社）鳥羽市観光協会及び（一社）伊賀上野観光協会が観光地域づくり法人（登録DMO）に、また、（一社）明和観光商社及び（一社）東紀州振興公社が観光地域づくり法人（候補DMO）に登録されました。
- ・三重県版観光スマートサイクル確立事業による三重県版観光CRMの構築に向け、令和元年8月から「答えてラッキー！スマホでみえ得キャンペーン」をスタートし、Webアンケートにより得られた観光客データから分析レポートを作成し、令和2年2月に報告会を実施し、市町やDMO、当該事業の協力施設等へアンケート結果や、分析結果を活用した課題解決方法に関して事例等を交えた形で情報提供を行いました。
- ・熊野古道世界遺産登録15周年記念事業として、7月にキックオフイベント、10月から

- 11月にかけて熊野古道ウィーク、12月にフィナーレイベントを実施しました。
- ・ 活動団体や農林水産事業者、アウトドアスポーツ・観光関連の企業等が参加する「三重まるごと自然体験ネットワーク」の活性化を図るとともに、ネットワーク会員と連携した情報発信に取り組みました。
  - ・ MieLIP 尾鷲において、地域資源を活用した体験交流として、モンベルアウトドアチャレンジと協同組合尾鷲観光物産協会が「馬越峠と天狗倉山トレッキング」を8回開催しました。また、県においては、当該取組をヘルスツーリズムの取組として会議等で情報共有を行いました。
  - ・ 齋宮歴史博物館において、壬申の乱に勝利した天武天皇によって天照大神宮に遣わされた実質的な最初の齋王をテーマにした「開館30周年記念・史跡齋宮跡指定40周年記念特別展 東雲の齋王 大来皇女と壬申の乱」(R1/10/5～11/10)を開催しました。
  - ・ (株)エイチ・アイ・エスと「食の海外展開に係る戦略的連携協定」を締結し、伊勢茶についてアゼルバイジャン、UAE、シンガポールでプロモーションを実施し、新規販路の開拓に取り組みました。
  - ・ 10月に県内5つの酒蔵とともに、フランス・パリにおいて日本酒のプロモーションを実施し、レストランや卸売業者との取引が9件成立しました。
  - ・ 新たな価値創出やブランド力の向上を図り新規市場を獲得できる人材の育成や食関連産業の将来を担う人材の確保に向けた魅力ある職場の創出などを支援し、三重県の食関連産業の将来にわたっての成長を促進するため、令和2年3月に食に関して産学官が連携する、「みえ食の“人財”育成プラットフォーム」を設立しました。  
令和2年3月24日設立(設立時会員数102会員)
  - ・ 県内の観光案内機能の充実に向け、観光案内所職員等を対象にした「VISITMIE TIC サミット」を2回開催(11月6日、2月12日)し、事例共有や意見交換、JNTO 地域連携部長による観光案内に関する講演等を行い、連携強化を図りました。
  - ・ 県内14の高等教育機関(大学、短大、高専)と県で構成する「高等教育コンソーシアムみえ」で取り組む「三重を知る」共同授業において、熊野市内の漁船観光の体験や紀和鉱山資料館の訪問などのフィールドワークやグループ学習等の授業で構成されるPBL(課題解決型)科目の1つとして、「食と観光実践」をテーマにした授業を実施しました。
  - ・ 鳥羽高等学校では、地元の事業所を中心に、2年生でインターンシップ、3年生でデュアルシステムを実施し、観光産業を中心に地元の産業の理解を深める取組を進めています。また、観光ビジネス系列では、社会人として活躍するために必要なマナーなどを学び、商品の企画開発をとおして、創造力や企画力、プレゼンテーション能力を育成しています。

## (2) 伊勢志摩サミット開催等の好機を生かした誘客戦略

- ・ 三重県版観光スマートサイクル確立事業による三重県版観光CRMの構築に向け、令和元年8月から「答えてラッキー！スマホでみえ得キャンペーン」をスタートしまし

- た。スマートフォンでアンケートに答えると、対象施設でおもてなしが受けられ、さらに、ポイントをためて応募すると三重のプレゼントが抽選で当たる仕組みとすることで、県内での周遊性、滞在性を高める取組を進めました。
- ・ 日本忍者協議会と連携し、忍者振興をテーマに、ツーリズム EXPO 2019 へ出展を行いました。
  - ・ 令和元年9月8日に鳥羽市担当者を講師に招き、一般向けに日本遺産を中心に海女漁の魅力発信する「海女トーク」を三重テラスで開催しました。
  - ・ 「農業遺産展」(11月16日)、「日本遺産PRイベント」(2月11日～13日)などの首都圏等のイベントにおいて海女振興協議会による海女漁業・文化や「海女もん」の魅力発信等の取組を支援しました
  - ・ 忍者、海女、真珠など本県が世界に誇る観光資源を取り上げた動画を制作し、YouTube等を通じて世界中に配信するプロモーションを行い、1300万回以上の再生回数を得ました。
  - ・ 改元を契機とした伊勢志摩の魅力発信と令和元年8月に開始した「答えてラッキー！スマホでみえ得キャンペーン」の利用促進のため、首都圏、関西圏の旅行会社に対するセールスを行い、本県への誘客促進に取り組みました。
  - ・ JNTOシンガポール事務所と連携し、現地での旅行博や航空会社と連携した訪日キャンペーンの実施などのプロモーションに取り組みました。また、JNTOの香港(9月)及びパリ(2月)の事務所長を招いて、現地の最新の訪日旅行事情などについての講演会を開催しました。
  - ・ 経済波及効果に加え、情報発信価値の高い政府系国際会議として、令和3年の第9回太平洋・島サミットをはじめとする3件の会議の誘致に成功しました。
  - ・ カナダアーティスティックスイミングチーム、カナダレスリングチーム、英国パラスイミングチームの事前キャンプを受け入れるとともに、交流事業を実施しました。

### (3) 利便性・快適性にすぐれた人にやさしい観光の基盤づくり

- ・ 新名神高速道路の亀山西JCTにおいて名古屋方面と伊勢方面を結ぶランプウェイが完成し、東名阪自動車道とのダブルネットワーク機能強化が達成されました。また、東海環状自動車道の三重・岐阜県境間(北勢IC(仮称)～養老IC間)の開通見通しが令和8年度と示されたことにより東海環状自動車道の全線で開通の見通しとなりました。さらに、紀勢自動車道の暫定2車線区間のうち、大宮大台IC～紀勢大内山ICの一部区間の4車線化が決定しました。直轄国道においても、未事業化区間であった鈴鹿四日市道路が令和2年度に新規事業化されることが決定するなど、県内の幹線道路網の形成に向け大きく前進しました。
- ・ 地域におけるMaaSの取組として、国土交通省の「新モビリティサービス推進事業」の先行モデル事業に選定された志摩地域ではオンデマンドバス、タクシー、マリンキャンプなど複数の交通モードの検索・予約・決済ができる環境整備、複数の交通機関や観

光施設を利用できるデジタルフリーパス等の実証実験に取り組むとともに、菰野町では地域公共交通網全体の検索・予約システム作成及びオンデマンド乗合交通の配車のAI化等に取り組みました。

- ・ キャッシュレス決済の利用による中小企業・小規模企業の生産性向上や消費者・観光客の利便性向上、需要の取り込みを図るべく、令和元年10月に「三重県キャッシュレス推進方針」を策定しました。
- ・ 三重県を訪れる外国人旅行者を中心にストレスフリーな旅行を楽しんでいただけるよう、キャッシュレス機器を導入し受入環境の整備を図り、導入の効果を検証するため、キャッシュレス化の実証事業を実施しました（鈴鹿市内の「F1日本グランプリ」の開催期間中における実証事業、伊勢市内の観光スポット（外宮参道周辺）における実証事業）。
- ・ 観光と交通の環境整備を一体的に進めるため、「観光地の『まちあるき』の満足度向上整備支援事業（観光庁）」を活用し、志摩市において実施した観光地型MaaSの拠点駅となる鵜方駅、賢島駅周辺の受入環境整備として、観光案内板や非常用電源装置の整備を行うとともに、外国人向け観光案内を行うための「VISITMIE AI チャットボット」を構築しました。
- ・ UD団体等との連携を図り、観光施設等の事業者の協力を得ながら、おもいやり駐車場の設置を促進しました。（登録施設数：2,169施設（令和元年度現在））。
- ・ 観光防災の主体的な取組を促すため、外国人旅行者への対応を含めた観光地での観光防災セミナーや、多言語避難マップや観光施設におけるBCP作成のための課題検討の場の設置、災害時の観光客への対応を想定した避難訓練等を実施しました。
- ・ 医療通訳を育成するための研修を実施するとともに、医療機関（3機関）に試行的に医療通訳を配置しました。
- ・ 暴力団排除条項導入に対する働き掛けあらゆる機会を通じて、宿泊事業者等の施設管理者に対し、利用規約等への暴力団排除条項の導入を働き掛けました。